



第5回文化芸術によるまちづくり座談会 ～総括～

0. 目次

○ 前半

1. 第1回座談会のふり返し
2. 第2回座談会のふり返し
3. 第3回座談会のふり返し
4. 第4回座談会のふり返し

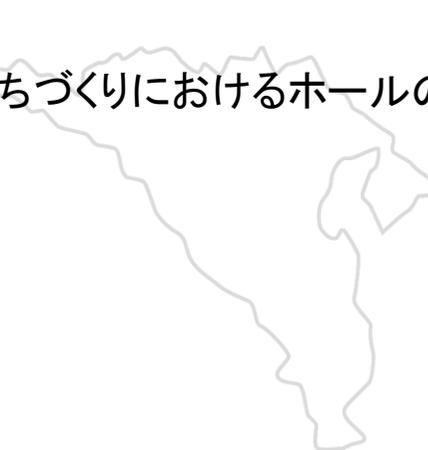
○ 後半

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント
6. 基本構想に向けて

1. 第1回座談会のふり返り

○ テーマ

町田市の現状
文化芸術によるまちづくりにおけるホールの役割



1. 第1回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● テーマ

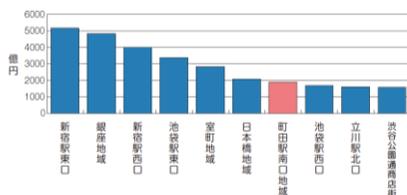
町田市の現状
／文化芸術によるまちづくりにおけるホールの役割

- 町田市の人口や交通アクセスなどの地理的特性を整理
- 中心市街地(町田駅前地区)を対象とした市の都市計画を紹介
- 町田市における文化芸術の紹介
- 八王子市、相模原市など周辺自治体のホールとの比較
- 「町田市コンベンションホール基礎調査」の概要を紹介

1. 第1回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● 首都圏における町田市の位置取り



※町田駅南口地域は、原町一丁目～六丁目（一部を除く）の商業集積地区

東京都の商業集積地区小売業の年間商品販売額
(出典:東京都「商業統計調査報告」)

1. 第1回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

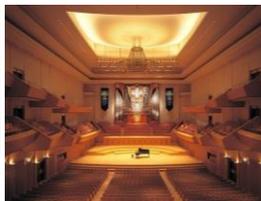
● 町田市および周辺自治体のホール



町田市民ホール



和光大学ポップホール鶴川



横浜みなとみらいホール



オリンパスホール八王子



相模女子大グリーンホール



ミュザ川崎シンフォニーホール

1. 第1回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● ホールの方向性

新しい文化ホールはどのようなホールか？

- 元々はコンベンションホールだったわけだが、いまは文化芸術ホールとなった。それぞれ別の目的の施設なので、文化芸術ホールの定義をしないといけない。何のためにホールをつくるのかということを考えないといけない。
- 文化施設を評価する指標を考えないといけない。文化芸術の振興とは何か。それは稼働率で表せるものなのかどうか。
- どういう公益を施設において果たすのかを考えるべきであり、それを遂行する専門人材を配置しなければならない。ただ、公益はお金にならないから、公的財源で支えなければならないというわけではない。どういう機能を果たす施設をつくるのか、どのような資金繰りで運営するのかを検討する必要がある。
- やり方はいろいろとあるが、大事なのは、ひとつの団体がレジデンスとして創作活動をしていくのがよいのか、多様な団体が日々活動を行って、市民がいろいろなものを楽しめるのがよいのかを決めることだ。

1. 第1回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● 利用者ターゲット／市外からの集客

周辺地域住民も観客としてとらえるべき

- 周辺地域に大きな利用者圏があることをアドバンテージとして、それを前提としてコンテンツを考えるべきではないか。
- 町田市は広域的な交通の要所であり、商圈としても十分成立している。夜間人口のことだけを考えてホールを検討するのではなく、来街者を含めて考えるべきではないか。
- 30～40年後のことも視野にいれ、経営やマーケティングの観点を加味するべきだろう。市外も利用者圏ととらえ、大きなスケールで考えたい。

1. 第1回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● 駅からのアクセス

集客・利用率向上には駅からの利便性が重要となる

- 町田駅を利用する人が多いのであれば、その通過する人を駅周辺に引っ張り込むことを考えるべきだろう。そのためには、できるだけアクセスのよい立地にホールを検討すべき。
- 観客も興行主催者も、利便性からホールを探すので、アクセスがよいことが重要。
- 最寄り駅から15分以上かかる場合も駐車場の整備次第ではないか。アーケードがあったり、バス路線があったりすると利便性が高くなる。

1. 第1回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● まちの価値の向上／住民獲得

自治体間競争を勝つまちになるためのホールのあり方とは？

- 人口は減少しているので、自治体それぞれに戦略を持って住民を獲得していかなければならない時代となる。町田も、少し遠いけれども住みたいと思ってもらえるようにならないといけない。将来移り住んでくる人を生み出すことが求められている。
- まちの価値を高め、生き残るためのサバイバル的な競争が始まっている。その競争のなかで、21世紀におけるホールのあり方を町田市が提示してもらいたい。それが市民の誇りになるのではないだろうか。
- シンボルとは何かということだ。新しく建設されるホールが町田のシンボルとなり、周辺にもそのように見えることが大切である。

1. 第1回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● 運営財源／まちへの経済効果

ホールのまちづくりへの貢献を経済効果として収支を考えるべき

- 貴重な税金ではあるが、民間企業や個人ではできない創作を行う場の提供という趣旨から、一定の税金を投資していただいて安定運営を図っていくことが理想と考える。どこまでの経費であれば町田市として計上でき、市民の理解が得られるのかということと、長い期間を見据えて考える必要がある。
- 行政におんぶに抱っこでお金を出してもらってばかりではいけないと考えている。市民が運営に参加して、最後には黒字になるようにしなければならない。そうすると、財団のあり方も考えないといけないのではないか。
- 町田市でいうと、ホール単体で考えれば赤字にならざるをえないが、まち全体でみたときに黒字になっていることを考える必要がある。
- 行政のホールにおいても、たとえばまちづくりへの貢献があり、それをお金に換算すればトータルで黒字になっているという考え方がよいのではないか。

2. 第2回座談会のふり返り

○ テーマ

文化芸術とまちづくり



2. 第2回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● テーマ 文化芸術ホールとまちづくり

- 特徴的な建築デザイン(ハード)をもつホールの事例紹介
- 特徴的な事業(ソフト)を行っているホールの事例紹介
- 都市開発におけるホールの位置づけ
- 町田駅前の都市整備の歴史
- 国内外におけるクリエイティブシティ事例
- ホールの集客力と経済波及効果

2. 第2回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● シンボルとなるホール



大船渡リアスホール:
リアス式海岸を模したデザイン



座・高円寺:
まちの風景をつくるデザイン



ミュージア川崎シンフォニーホール:
音符のかたちを模したデザイン



能登演劇堂: 演劇のまち



金沢県立音楽堂:
オーケストラの拠点



ミュージア川崎シンフォニーホール: 宝塚大劇場: 歌劇団のまち
音楽のまち



2. 第2回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● ホールと街区の関係



駅前再開発事例(オリンパスホール八王子)



都市公園事例(アクロス福岡)



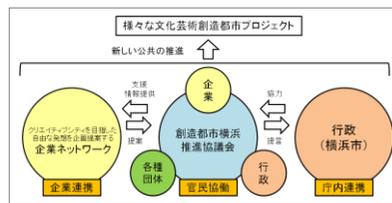
街区開発事例(東京国際フォーラム)

2. 第2回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● クリエイティブシティ戦略

- 文化芸術やクリエイティブ産業を通じた都市の産業・経済の再生手法
- 日本では横浜市が先進的な取り組みをするほか、札幌市、神戸市、金沢市がユネスコの創造都市ネットワークに参画



横浜市におけるクリエイティブシティ戦略(公式HPより)

● 都市の集客力



ラ・フォル・ジュルネ東京:
来場者46万人(2012年)



サイトウ・キネン・フェスティバル:
来場者9万人(2012年)



BBCプロムス:
来場者30万人以上(2012年)

2. 第2回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● シンボルとしてのホール／町田らしさ

町田市のシンボルとなるホールとはどういうものか？

- シンボルとは何かという話になる。ソフトとハードの両面があるが、理想的には両立したい。ハード的に意味を持ち、なおかつソフトも充実していけるとよい。
- 既存のホールとの棲み分けを考え、有効に利用する必要がある。それを整理した上で、まちのシンボルとして、まちづくりの政策のなかで明確にするべきだろう。いまあるものを大事にした上で、新しいホールに何を求めるのかを考えないといけない。
- たとえば2,000席のホールで300日間興行を行えば年間60万人が訪れることになる。60万人の人がまちに訪れることによって目に触れる機会となる。そういう経済活性をもたらすシンボルがすばらしいと思っている。
- 外見的には、これからの町田市と現在の町田市を表象するようなものをつくれるかどうか課題となる。

17

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

2. 第2回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● 市外からの集客

それがあることで町田に人が訪れるようなホールを考えるべき

- 町田市は人口も多く、駅の乗降客数も多い。少なくとも相模原から町田に人を呼ぶことでまちを活性化することを考えたい。人の流れを変えてしまうようなホールが考えられる。
- 相模大野や府中まで含めて、周辺地域をよくマーケティングした上で席数やホールのスペックを考える必要がある。都心への人の流れを逆転させ、川崎や横浜の人たちが町田に訪れるという新しい流れも生み出せるだろう。
- 町田を通過することは多いと思うが、降りることはないのではないか。駅で降りてもらって、消費行動をしてもらえるようなホールがよいと思っている。
- 本来的には活動しているだけでなく、対外的に発信する必要がある。内部の活動は発信しなければ周知されない。その結果を発信することで、活動を周知し、その活動に参加するために足を運んでもらわないといけない。
- ホールをつくと市外からも人が訪れる。使われるから困るというのではなく、来てくれれば町の活性化につながるし、経済的にも影響があるということをうまく説明する必要があるだろう。

18

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

2. 第2回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● まちづくりにおける位置づけ

都市においてホールが果たす役割とは何か？

- 大切なことは、芸術文化ホールとその土地がいかに抜き差しならない関係にあるかどうかだ。飾りとしてホールがある、他の土地にもあるから建設するという考え方は許されなくなる時代になっている。
- 都市のなかくにぎわいをつくることでもう一つの都市をつくるという二重構造にある。自分の選択によって回遊性が確保される。観よう、食べよう、楽しもうといった色々な選択ができるようなセッティングがある。文化施設がひとつだけあるスタンドアローンではいけない。
- 都市開発を行うなかでホールを位置づけるとどうなるのかということだと思う。開発のなかでどのようなホールをつくっていくのかを考える必要があるが、駅との立地関係などの組み合わせのなかで考えていくことだろう。
- ホールができることによってまちが変わっていくには、10年、20年という時間がかかる。かんたんに5年後、10年後に検証しようとしても、経済効果が測れるものではない。

3. 第3回座談会のふり返し

○ テーマ

町田市における文化芸術論



3. 第3回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● テーマ 町田市における文化芸術論

- 「する・魅せる」「育つ・育てる」「観る・聴く」という観点での事例紹介
- 文化芸術がまちのアイデンティティとなっている事例紹介
- 新しい文化芸術ホールのコンセプト案：創造・集合・発信
- 「こんなことできたらおもしろいな!!」

3. 第3回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● 「する・魅せる」「育つ・育てる」「観る・聴く」

カテゴリ	分野	団体名
する・魅せる	オーケストラ	町田フィルハーモニー交響楽団、町田楽友協会、町田ヴィヴァーチェ管弦楽団 町田・相模原イーストメリーウインドオーケストラ
	演劇	劇団マチダックス、劇団「ここ」
	ミュージカル・オペラ	町田市合唱連盟、町田シティオペラ協会、町田市民ミュージカルの会
	発表会	町田市民文化祭、合唱祭、町田市郷土芸能まつり 町田ジャズフェスティバル(町JAZZ)、Machida Collection(まちコレ) FMCけいおんフェスタ
育つ・育てる	コンクール	まちだ全国バレエコンクール、全国町田ピアノコンクール 町田ジュニアフェスティバル 音楽の部/バレエの部、ポップフェスティバル in 町田
	若手アーティスト支援	若き演奏家による水曜午後の音楽会、まちだフレッシュコンサート 地産地SHOWプロジェクト
	芸術教育を行う大学	桜美林大学芸術文化学群(演劇、音楽など)、和光大学表現学部 玉川大学芸術学部、昭和音楽大学、昭和音楽短期大学
	ゆかりのアーティスト	菅井円加(バレエダンサー)、諏訪内晶子(ヴァイオリニスト) BAWDIES(ロックバンド)、LUNA SEA(ロックバンド)、在日ファンク(ファンクバンド) 音楽座ミュージカル

3. 第3回座談会のふり返し

① テーマと報告概要

● 文化芸術によるまちのアイデンティティ形成

- 創造：ホールにおいて新しい文化芸術が創造・発信されている
- 集合：市外からコンテンツを集めることで、ホールのあるまちとして特徴づける

事例	枠組み・性質	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・水戸芸術館 ・山口情報芸術センターYCAM 	市の施策を背景に公共ホールで新しい芸術作品が創り出されている	創造
<ul style="list-style-type: none"> ・東京芸術劇場 ・まつもと市民芸術館 など 	優れた人材を招聘し、新しい芸術作品が創り出されている	
<ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラ・アンサンブル金沢 ・兵庫県立ピッコロ劇団 	専属の楽団・劇団による新しい芸術作品が創り出されている	
<ul style="list-style-type: none"> ・浜松国際ピアノコンクール など 	優れた才能が集まり競い合う	集合
<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージア川崎 ・すみだトリフォニーホール など 	その地域以外の専門集団がそのホールを活動拠点としている	
<ul style="list-style-type: none"> ・ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポンなど 	優れた演奏家を集め、その魅力を発信するプログラムを実施	

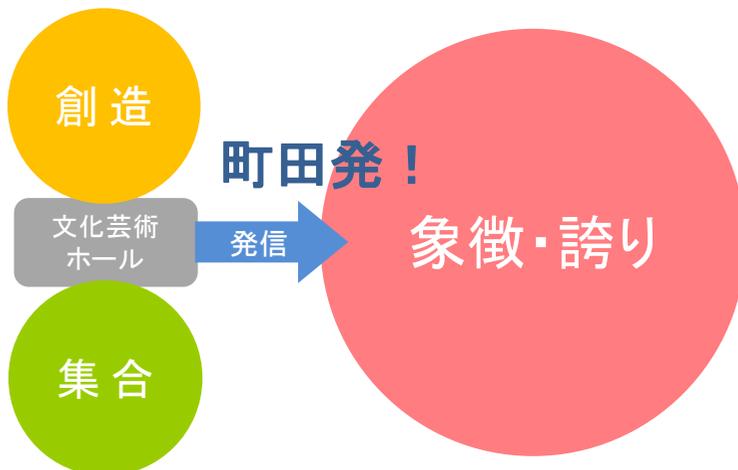
23

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

3. 第3回座談会のふり返し

① テーマと報告概要

- 創造・集合・発信による「町田市の特徴・市民の誇り」の形成



24

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

3. 第3回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● まちの価値の向上／町田らしさ

まちの価値を高め、拠点性をもたらしような文化芸術であるべき

- 場合によっては町田も人口減少の時代に入っていく。町田が求心力をもっていくためには、町田における文化芸術と言うのは、単に豊かになった市民が余暇時間に楽しむ、消費するのではなく、ここ自体がオリジナルな創造活動をしていく場である必要がある。プロの創造、要は働く場所、稼ぐ場所としての町田が大事なのではないか。
- 発掘された人たちが町田にとどまらず出てしまうことが問題で、町田を拠点にしてもらうことで、文化創造を仕事としてやっている創造都市になっていく可能性がある。
- ここでしかないものをつくれるまちになる可能性が高まっていて、多少東京から距離があっても、それが町田の魅力となり、人口が減少する時代になっても、町田が求心力を持つ。
- 拠点にならないと都市は生き残っていけない。ホールをつくることで拠点性を高めるだけのホールになることができるかが問題だろう。
- 町田にしかないものをつくっていく。そういうことでオリジナリティのある創造活動が、仕事として定着していると、発信力があるのではないか。それが町田の誇りやアイデンティティにつながっていくのではないか。

25

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

3. 第3回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● 市民活動支援／町田らしさ

市民活動と新しいホールの関係を考えるべき

- これほど多岐に渡って重層的に活動が行われているのは全国的にもめずらしいと思う。このような状況に行政がかかわって広げていくというのはチャレンジだと思うが、「町田らしい」をどういふものかを掘り下げる必要がある。
- 市民の文化芸術活動は盛んだが、「町田らしさ」として発信するならば、相応のレベルが求められる。活動が広がることはいいと思うが、新しいホールを考えると、「町田らしさ」となりえる活動が出現しないといけないのではないか。

26

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

○ テーマ

ホール経営論



27

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● テーマ
ホール経営論

- 町田市周辺のエリアの特徴の分析
- 都市政策・文化政策の観点から見た町田市のSWOT分析
- 観客動員型経営戦略の紹介
- 芸術創造・発信型経営戦略の紹介
- 市民活動支援形経営戦略の紹介

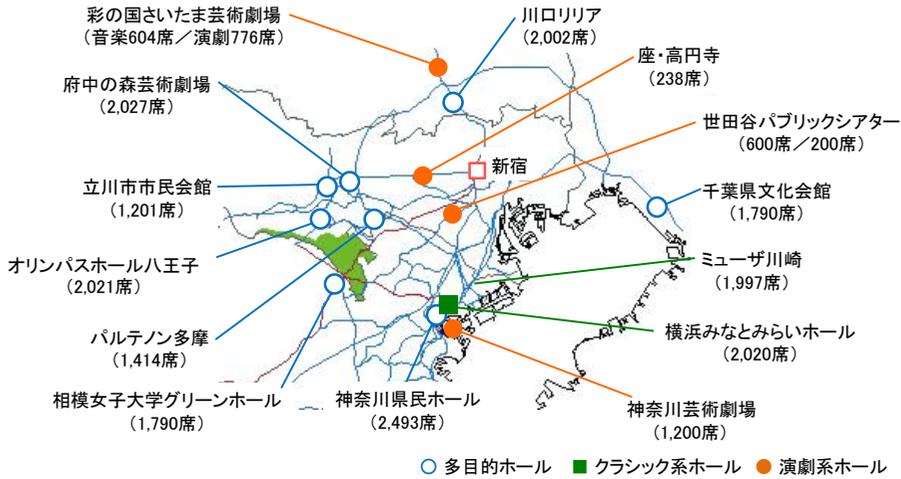
28

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● 東京郊外におけるホールの分布



29

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● 町田市のSWOT分析

● 都市政策の観点 ◆ 文化芸術の観点

強み(S)	機会(O)
<ul style="list-style-type: none"> ● 町田駅の乗降客数が多い ● 都内有数の商業集積がある ● 市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川、国際版画美術館等の文化芸術資源がある ◆ 市民による文化活動が活発 ◆ 音楽座ミュージカルの拠点である ◆ 文化芸術活動を発表する場や機会が確保されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前商業地のにぎわい ● 神奈川西部、山梨、静岡からの集客が考えられる ● 多摩都市モノレール延伸は新たなアクセス動線を期待できる ◆ 市内・近郊の芸術系大学の集積 ◆ 映画館などの娯楽施設を求める市民の声が多い ◆ 町田駅周辺のライブハウスやジャズバーで定期的にライブが行われている ◆ 中学・高校での盛んな芸術教育
<ul style="list-style-type: none"> ● まちのシンボルの不在(まちのイメージを形成するような独自の要素が少ない) ● 市内における交通利便性が低い ● 治安が悪いイメージがある ● 駅周辺の歩行環境の改善が必要 ◆ 文化芸術活動の担い手の世代交代が進んでいない ◆ 市内学校行事と市民ホールの規模が見合っていない ◆ 興行主催者が町田市を公演先として選ばない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺自治体で駅前再開発が進んでいる ● 新交通網整備によって市外に買い物客などが流出する ● 急速な高齢化が進んでいる ● 人口流入が減少している ◆ 周辺自治体の多目的ホールの集積 ◆ 町田市以東に演劇専門ホールが集積 ◆ 京浜エリアにクラシック専門ホールが集積 ◆ メディアの発達による若者の劇場離
弱み(W)	脅威(T)

30

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

① テーマと報告概要

● とるべきホールの経営戦略

戦略① 観客動員型経営戦略

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・興行主催者に対してホールを貸し出し、集客力のある公演を行う ・地元業者と連携し、観客のシャワー効果による経済効果を生み出す
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施費が抑えられ、施設利用料収入次第では収益が上がる可能性がある ・自主事業実施による事業費負担のリスクが回避できる
デメリット・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・都心・横浜エリアにおける競争に勝てるか？都心部からの人の流れをつくれるか？

戦略② 芸術創造・発信型経営戦略

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術的なプログラムを自館で創作・公演し、新しい価値を打ち出す ・市外、ならびに国外に発信することで地域の価値を高める
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテンツ次第では全国から集客できる可能性がある ・まちの魅力・価値の向上と周辺自治体との差別化が図れる
デメリット・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・自治体財源からの負担が大きくなり、直接的な収見込みも少ない ・チケット売上以外の資金調達ができない場合には事業実施数が少なくなる場合がある

戦略③ 市民活動支援型経営戦略

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市民による文化活動に場所を提供し、活性化を図る ・活動をサポートし、活動の展開を図る
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・市民生活における文化度が向上する ・人材育成事業の成果次第では市民発のコンテンツが生まれる
デメリット・懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・広域からの集客やまちの価値の向上といった戦略①・②で期待される効果は望みにくい

31

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返り

② 委員からのご意見

● 市外からの集客

市外からも観客が訪れてもらえるホールを考えるべき

- 集客するコアな地域をどこに設定するのか。町田市民に来てもらうことはもちろんだが、市外から来るとすればどこからなのか。
- コンサートは関東圏で収益を上げて、それを地方公演に回しているのだから、ブッキングする側としては関東圏にもっとホールが欲しい。2,500席あればブッキングしたがるだろう。
- キラーコンテンツをもってきて町田に集客をしようとするなら、他自治体（特に相模原）とはホールのコンセプトを変えるべき。
- 駅からのアクセスでいうと他のホールと比較して、より便利に思ってもらえるように考えるべき。一度来たときに不便さを感じられると二度目は見込みにくい。
- 一番やってはいけないことは土地の制約から決めたり、周辺マーケットを意識せずにスペックを決めてしまうことだ。

32

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

4. 第4回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● まちへの経済還元

市内経済や産業活動に好影響を与えるホールを考えるべき

- ツアーで地方を回ると、コンサートと地元が連携していないことがある。町田で外貨を稼ごうとするなら、町田で消費行動をしてもらうための仕組みをつくらなければならない。コンテンツによって人の流れは異なるが、ホールとして戦略を持つべきだ。
- 東京に圧倒的なマーケットがある。相模原・八王子との競合はあるが、都心のあふれをもらうことで出し抜けるのではないか。ただ、市の産業活動も喚起できるようなものでないと、支払ったコストを回収することはできない。

4. 第4回座談会のふり返し

② 委員からのご意見

● 市民活動支援

市民活動も念頭に置いて、ホールの役割分担を検討するべき

- 町田市にはすでにホールがあり、既存の活動がある。それらをゼロベースにして新しくするわけではないだろう。ただし、仮に2,500席のホールをついたら、市民団体にとっては使えないものになる。そうすると既存のホールを有効に活用することも考える必要がある。

0. 目次

○ 後半

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

6. 基本構想に向けて



5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

○ 目次

① 文化芸術ホールの観点から

② まちづくりの観点から



5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

① 文化芸術ホールの観点から

● 新たにホールをつくる目的

- 以下のポイントを踏まえ、ホールをつくることによって何を実現したいのかを検討するべき

1. ホール自体の方向性：文化芸術創造／観客動員／市民活動支援

- いずれかを選択するのではなく、メリット・デメリット、具体性・将来性の観点から3つを組み合わせで考える
 - 文化芸術創造は市のブランディングに対する投資として位置づける必要がある
 - 広域からの観客動員は十分なホール規模が必要だが、事業性検証が必要となる
 - 市民活動支援は、既存のホールも含めた活動とホールのマッチングを図るべき

2. 文化芸術にとどまらない複合的な目的

- 文化芸術にくわえて、ホールの存在や事業を、教育や福祉などの市民の暮らしに対して複合的な影響を及ぼすものとして考える
- まちづくりや地域経済に影響を及ぼすものとしてホールを考える

37

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

① 文化芸術ホールの観点から

● 今ある文化資源の活用

- 以下のポイントを踏まえ、市民の文化芸術活動などさまざまな文化資源の掘り起こし、連携を検討するべき

1. 市内活動団体との連携

- 既存の文化芸術活動・文化芸術資源を掘り下げ、連携の可能性を考える
- 活動・発表の場所の提供にとどまらない、人材や活動の育成への展開の可能性を考える

2. 既存の市民ホールとの棲み分け

- 市民ホール・和光大学ポプリホール鶴川などを活用することで、新しいホールとの役割・機能の棲み分けを考える
 - 観客動員を目指す、市民活動には使いにくいホール規模にならざるをえない

3. 市内および周辺の大学との連携

- 町田市の特徴である芸術教育を行う大学との連携を考える
- 大学卒業後も町田市で活動する機会の提供の可能性を考える

38

第5回 文化芸術によるまちづくり座談会

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

① 文化芸術ホールの観点から

● 戦略的かつ効果的な経営手法

- 以下のポイントを踏まえ、ホールの戦略的かつ効果的な運営を検討すべき

1. 自治体による公共負担の考え方

- 事業費に対して、自治体から支出できる公共負担について考える
- ホールの収益を上げることで公共負担を引き下げる方策について考える
 - 観客動員を図ることで事業の抑制、自己負担率の増加の可能性の検証

2. 観客・利用者のコア・ターゲットの設定

- だれがホールを利用するのか、どこから観客は足を運ぶのかを考える

3. 近隣自治体のホールとの差別化

- 選ばれる／足を運ばれるホールになるために、近隣自治体のホールとの差別化について考える

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

② まちづくりの観点から

● 都市経営に対する寄与

- 以下のポイントを踏まえ、都市経営への寄与のあり方を検討すべき

1. 人口減少時代において「選ばれるまち」

- 文化芸術を盛り上げることで、まちの魅力・価値を高める方向性を考える
- 魅力・価値の発信を通じて「住みたい」「働きたい」と思われることで、人口減少時代にあっても「選ばれるまち」となる可能性を考える

2. 創造的人材が集い、刺激を受けるまち

- 首都圏における文化芸術の拠点ができることで、芸術家・クリエイターが集い、さらに文化芸術が盛り上がる仕掛けを考える

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

② まちづくりの観点から

● まちのシンボルとしてのホール

- 以下のポイントを踏まえ、まちのシンボルとなるホールを検討すべき

1. 「町田らしさ」の発信

- 建築としても、事業においても、市内外からみてシンボルとなるホールのあり方を考える
- 将来にわたって町田を象徴し、コンテンツ(公演)の発信を通じて「町田らしさ」を生み出していくホールを考える

2. 市民の誇りとなるホール

- ホールが発信するコンテンツ(公演)を通じて、市民が町田市に対して誇りを持てるようなホールのあり方を考える

5. 文化芸術によるまちづくりのポイント

② まちづくりの観点から

● 地域経済・産業への波及

- 以下のポイントを踏まえ、ホールから地域経済・産業への波及効果を考えるべき

1. 地元商業へのシャワー効果

- ホールによって市外からの集客を図り、市内での消費活動をうながすことで、市内商業者に経済的な還元を生み出す可能性を考える
- 市内商業者と連携することで、経済的な効果を生み出す仕組みを考える

2. 地域産業の活性化

- ホールでの事業を通じて、新たな投資を呼びこむ可能性を考える
- ホールがあることで芸術家・クリエイターが仕事をしたいと思うまちになるようなホールを考える

6. 基本構想に向けて

○ 目次

- ① 基本構想に織り込むべき要素
- ② 基本構想に向けた検討事項



6. 基本構想に向けて

① 基本構想に織り込むべき要素(1)

A) 「ホールのあるまち」のイメージ

- ホールをまちづくりの核として位置づけ、「ホールのあるまち」のあり方そのものを検討する必要がある。
- ホールによって、まちの価値を向上させることを追及していく。

B) 広域からの集客に関する考え方

- 広域からの集客を図るには、著名なアーティストの公演が行われる必要があり、それを仕掛ける興行主には選ばれたホールでなければならない。この点、立地、規模、附属設備は決定的な要素となる。それを踏まえ、検討を進め、考え方を示す必要がある。

C) 近隣ホールとの差別化に関する考え方

- 町田市の近隣には2,000席規模のホールが林立している。そのため同規模の多目的ホールでは競争になり、ホール経営は成立しない。一方、音楽ホールやオペラハウスなど専門ホールは、使用方法が限定され、採算面から現実的ではない。そのため、多目的ホールでありつつも、規模で差別化を図るなど、何らかの特徴づけが必要となる。

6. 基本構想に向けて

① 基本構想に織り込むべき要素(2)

D) ホールの性格づけに関する考え方

- ホールの性格づけには色々な考え方があるが、ホールを芸術創造の拠点としていくには、お金、時間、優れた人材が必要。その方向性を模索していくのであれば、市の文化政策としての明確な位置づけとともに、将来にわたる公共負担への判断が求められる。

E) 市民の文化芸術活動に関する考え方

- 市民の文化芸術活動のさらなる展開を期待し、文化芸術ホールを中心に既存ホールを活用しながら市全体で盛り上げていく必要がある。

6. 基本構想に向けて

② 基本構想に向けた検討事項

● 市民がもとめる文化芸術・エンターテインメントを把握する

- 現在の町田市における文化芸術・エンターテインメントに関する取組に対して、足りていない、もっと充実させてほしいと思うことを把握する

● 広域から町田市に来てもらうことを想定したマーケティング調査

- ホールの経営を見据えて、集客規模と演目、コンテンツの関係、ターゲットエリアの想定、興行側の動向などを調査する